

令和3年度(2021年度)  
学校自己評価報告書

令和4年(2022年)6月

学校法人電波学園  
名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

MEIGAISEN

## 《学校自己点検評価委員会》

委員長	小川 義則	(校長)
副委員長	伊藤 洋子	(教務部長)
実施責任者	矢島 親男	(教務科長/商業実務専門課程責任者)
委員	坂口 大介	(文化教養専門課程責任者/英語科)
	金井 翼	(国際ホテル科)
	市石 浩久	(国際ホテル科)
	金井美香子	(ブライダル科)
	加藤 舞	(国際エアライン科)
	神谷 公司	(事務部長)
	小野 徹	(広報課)

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 3
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 4
	(1) 教育理念・目標	P 4
	(2) 学校運営	P 5
	(3) 教育活動	P 6
	(4) 学修成果	P 8
	(5) 学生支援	P 9
	(6) 教育環境	P 10
	(7) 学生の受入れ募集	P 11
	(8) 財務	P 12
	(9) 法令等の遵守	P 13
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 14
	(11) 国際交流	P 15
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16

## I 学校の現況

- (1) 学校名 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
- (2) 所在地 名古屋市千種区今池五丁目24番4号
- (3) 沿革
- |         |  |
|---------|--|
| 平成 3年4月 | 名古屋市千種区今池に名古屋外語専門学校を開校<br>文化教養専門課程 実用英語科を設置          |
| 平成 6年4月 | 商業実務専門課程 国際ビジネス科設置                                   |
| 平成 9年4月 | 実用英語科を外国語学科に改称                                       |
| 平成11年4月 | 外国語学科に英語コースとエアラインコースを設置                              |
| 平成16年4月 | 国際ビジネス科をホテル観光科に改称                                    |
| 平成20年4月 | ホテル観光科にブライダルコースを設置                                   |
| 平成22年4月 | 新校舎(現1号館)完成<br>外国語学科を廃科し、国際エアライン科、英語科、<br>ブライダル学科を設置 |
| 平成24年4月 | 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校へ校名を改称                            |
| 平成25年4月 | ホテル観光科を国際ホテル科に、ブライダル学科を<br>ブライダル科にそれぞれ改称             |
| 平成27年4月 | 国際エアライン科に航空ビジネスコースを設置                                |
| 平成28年4月 | 国際エアライン科 航空ビジネスコースの学生募集を停止し<br>航空ビジネス科を設置            |
| 令和 2年3月 | 航空ビジネス科を廃科   |
| 令和 2年4月 | 英語本科(四年制課程)を設置                                       |
- (4) 学科の構成
- |          |          |     |
|----------|----------|-----|
| 文化教養専門課程 | 英語本科     | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 英語科      | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 国際エアライン科 | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | ブライダル科   | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | 国際ホテル科   | 昼間部 |

### (5) 学生数および教職員数

学生数:383名 教員数:専任16名、講師23名 職員数:4名

### (6) 施設の概要

#### 【1号館】

普通教室、エントランス、来客ラウンジ、学生ラウンジ、モックアップ実室  
エアポート実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、  
英会話実習室、パウダー実習室、バンケット実習室、ゲストルーム、衣裳室  
ブライダルサロン、チャペル、ホテルフロント実習スペース、多目的ホール、  
音楽スタジオ、カウンセリングルーム、図書室、事務室

#### 【2号館】

普通教室、パソコン実習室、保健室、校長室、職員室、講師室

## Ⅱ 評価の基本方針

- ・学校としての組織的な取り組みや成果を調査し、現状や評価できる点、問題点および今後の方策や改善スケジュールを導き出す。
- ・教育水準の向上と保証を図る。
- ・教職員が課題意識を共有する。
- ・家庭や地域に支えられる開かれた学校を築き、相互理解を深める。
- ・「ありがとう」と周囲から感謝される学校づくりに役立てる。
- ・個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・学校自己評価を実施して終わりではなく、教育活動や学校運営の改善につなげる。

### Ⅲ 教育目標・重点目標

- (1) 本学園の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」である。それに基づき、校訓である「国際性・積極性・協調性」を教育信条にして知識・技術・態度を養うことで、社会の一員にふさわしい資質を育てる。
- (2) 本校の学生たちは、航空業界、ホテル業界、ブライダル業界などサービス業界への就職を目指している。それらの業界で求められる基礎知識、および専門知識を十分に教授する。また、グローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財を育成する。
- (3) 本校は“ホスピタリティ教育”を軸に、社会の情勢、変革などを見極めながら毎日の学校生活の中で「建学の精神」を指導、実践する。  
特に企業から歓迎される「人柄」、つまりチームにおける協調性や、組織に対する貢献を強く意識できる人財を育てる。

#### IV. 評価項目の達成及び取組状況

##### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④ 3 2 1
○学校における職業教育の特色は定められているか	④ 3 2 1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4 ③ 2 1
○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

##### 《現況》

完全担任制を採用し、「専門スキル＋語学力＋人間力」を教育目標に学級運営を行っている。特にチームワークについて深く学び、仲間と協働することに価値を見い出せる学生を育てている。また、学科に対応する業界のニーズに応えるため、企業の担当者、保護者を迎え教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を行い、教育理念・目標に反映するようにしている。

##### 《課題と改善策》

上記「人間力」、「チームワーク」を育てる手法として、授業内でのグループワーク、学外研修、課外活動、学校行事などを主なものとしてきた。しかし、コロナ禍においては、それらを積極的に行うことは難しく中止・変更せざるを得ないものもあった。クラス内にコロナ陽性者が複数名に出た時には、オンラインでの授業実施を強いられたこともあり、「対面」ではないことにより、本校の教育に対する熱意を伝えることができたのか、本来の目標に達することができたのかを問われる1年となったように思われる。

この様な新しい課題があふれる現代社会において、企業から求められる人材も日々変化していると感じる。問題発見能力と問題解決能力を備えた学生を育て、社会に貢献できるよう粘り強く教育を行っていきたい。

##### 《特記事項》

特になし

## (2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
○人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

### 《現況》

年度始めに理事長および学校長から全教職員に「運営方針」が発表される。その方針に従い、前年度中に計画された事業計画とともに学校運営に当たっている。意思決定等についても運営会議、協議会、各種委員会などの組織が確立され、有効に機能している。さらには電波学園中長期計画に基づき、本校のロードマップ委員会を設置。5年後の目標を策定し達成に向け取り組んでいる。

### 《課題と改善策》

教職員構成の年齢層に偏りがある（中間層が少ない）状況であるため、早期の次期リーダー養成が必要。各種ミーティングや日常の仕事の中から、候補者に対して業務知識や管理能力の伝授を進めている。必要とあらば、新規採用や異動による教職員の補充も検討していかなければならない。

### 《特記事項》

特になし

### (3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

## 《現況》

職業実践専門課程認定学科設置校として各科毎に教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの内容について検討している。また、関連分野における知識と技能を習得できるよう業界の実務経験者を配置し教育を行っている。

教職員の資質向上については、各分野の関係企業の担当者による講話や学内教務研修会、電波学園姉妹校間授業見学研修会、さらに外部研修会として教員のホテルインターンシップ、フィリピン航空 CA トレーニング等への参加で授業力のブラッシュアップに役立っている。

## 《課題と改善策》

令和3年度は令和2年度同様、コロナ禍により、学生の各業界へのインターンシップ、海外研修、留学、また教員の各種学外研修は中断、または中止となった（インターンシップについては一部の学科では実施）。代替として、英語本科・英語科ではオーストラリア・サザンクロス大学とオンラインによる研修と福島県ブリティッシュヒルズへの国内研修を実施することができた。今後も新型コロナウイルス感染防止対策を検討しながらの学校行事運営を模索していく必要がある。

## 《特記事項》

英語本科は令和4年度に約1年間の留学を控えていたため、時間を掛けてその準備を進めてきた。最終的には令和4年5月および6月からイギリスに1名、カナダに6名、オーストラリアに2名が旅立つことが決まった。留学初年度ということで、その準備には想像以上の労力を強いられ、次年度以降への大きな教訓となった。

#### (4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
○資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

#### 《現況》

就職実績については、コロナ禍でありながら全学科、年度内に就職希望者の内定を100%決定することができた。関連企業への就職も英語科は約61%、ブライダル科は約93%、国際ホテル科も約93%と、同種他校と比較しても胸を張れる結果を残すことができたものの、国際エアライン科については航空業界の採用が再開されず、令和2年度以上に厳しいものとなり、関連企業への就職は約14%に留まった。

退学率については令和2年度の5.67%と比較し、令和3年度は8.07%と大きく増加させてしまった。退学の理由はそれぞれあるものの、進級を決めていながら年度末での退学する者が目立ったことは遺憾である。

また、英語資格について英検準一級8名、TOEIC 900点以上6名、800点台12名、700点台20名、600点台30名の結果を出すことができた。上位級の合格者については昨年度と同程度の数値であったが、下位級の合格者を増加させることができたのはきめ細かい指導の結果であると自負している。

#### 《課題と改善策》

エアライン業界への就職については令和4年度には相当の新規採用募集が見込まれるようである。採用がなかった令和2年度、3年度の卒業生については今後業界への希望者が出るようであれば、学校としてしっかりと対応をしていく。

退学率の増加については、学科間のミーティングや学生面談の機会を増やしたにもかかわらず、結果として現れなかった。進路変更での年度末での退学増は、やはりこれまでの指導に何らかの原因があるものと捉え、平成4年度は担任配置にも工夫をし、学生との面談機会を更に増加させ、退学の芽を早期に発見する。

#### 《特記事項》

特になし

## (5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
○父母等と適切に連携しているか	④	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	4	③	2	1

### 《現況》

就職指導については、各科において企業別や職種別に徹底的にサポートを行っている。具体的には入学当初から就職活動の啓蒙、1年次後期から学内企業説明会を開催。授業後の面接対策補講やカウンセリングは内定を得るまで手厚く行っている。また、毎年教育懇談会を開催し、父母等にも各業界の特徴を理解いただきながら指導にあたっている。

### 《課題と改善策》

コロナ禍が解消されたわけではないものの、会社説明会、採用面接、内定後の研修等のオンラインが占める割合は徐々に減少し、以前のように対面での面談・面接が増加。当然、オンラインでの面談・面接対応にも備え、どんな形であれ慌てることのないように事前指導は進めてきた。

しかしながら、年々教職員の学生指導に対するスキルは向上しているものの、マン

パワーの不足は否めず、退学防止を含めた学生指導・面談の増加も重なり、1 人に対する業務負担が上がってきてしまっていることが現状の課題となっている。  
 また、学内の Wi-Fi 環境を整備したことと、年度末にハイスペックなパソコンを各科に購入したことから、以前はオンライン面接中に不具合が生じたりする場合が散見されたものの、ネットワークへのレスポンスは格段にアップし、接続遅延は大幅に解消されている。こういったインフラ面については少しずつではあるが整備されてきている。

#### 《特記事項》

日本学生支援機構奨学金の利用者が本校学生の約 3 割程度となっているが、毎年一定数、経済的事情での退学者が出ているのも現状である。日本学生支援機構の予約生については、修学支援新制度も含め、年々増加傾向であると見られるが、高校での指導・斡旋体制が確立されてきたこともその要因と考えられる。入学後のスカラネット登録が支障なく進むよう事前準備を整えており、予約生増にも学内の対応はスムーズに進行させている。

#### (6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

#### 《現況》

施設は各分野の現場を想定した実習室を完備している。具体的にはエアポート実習室、モックアップ実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、ブライダルサロン、チャペル、バンケット実習室などである。これらは現場の意見を参考に年度毎に施設設備の充実を図っている。

インターンシップについては、ホテル、空港(グランドスタッフ)、児童英会話教室、小学校(英会話授業補佐)など、実際の現場でプロから学べるよう実習先を確保している。また、毎年実施している海外研修の内容は各学科の特色を活かしたものであり、職業実践教育の観点ではクオリティの高いものである。

#### 《課題と改善策》

英語本科・英語科のオンラインでの研修以外、令和 3 年度の海外研修、海外留学に

については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。令和4年度は学生にとっての大切な教育の機会を確保するため、極力留学・研修を実施したい。ただし、円安、ウクライナ情勢等により、渡航費用増の傾向が強いことから、海外での留学・研修を実施するとしても近隣の国、難しいようであれば国内研修、オンライン研修も視野に入れ計画している。

防災については危機管理マニュアルを生かし、日頃から有事に生かせるよう準備を整えておく。

#### 《特記事項》

平成30年度からシェイクアウト（地震防災）訓練を実施している。

また、本校は災害時の緊急避難場所等として地域社会に協力する旨の「大規模災害時における地域と事業所との支援協力に関する覚書」を結んでいる。

#### （7）学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	④	3	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学生納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

#### 《現況》

高校の進路指導室訪問、高校での進学説明会等で就職実績、資格取得状況等の正確な情報提供を行っている。学生募集活動の要であるオープンキャンパス・学校見学会では、各科から多くの在校生が「お手伝いスタッフ」として参加協力し、高校生に生の声を届けてくれている。

学生納付金については、実習費も含めて在学中に徴収する納付金のすべてを募集要項に記載している。

#### 《課題と改善策》

募集活動については正直芳しい成果を上げているとは言えない、2年連続して大幅な入学者減となっている。この要因として18歳人口の減少も挙げられるが、本校のような卒業後に「サービス業」への就業をメインとする学校・学科は、コロナ禍の影響を最大限に受けたと言っても過言ではない。特に国際エアライン科は業界への就

職がほぼ叶わず、夢を持って入学した学生を「なりたいたいものになって卒業」させてあげられなかったことは非常に心が痛い。

幸いにして令和4年度は航空業界も活性化を取り戻し、相当数の内定が見込まれる。また、前述したが、令和3年度のブライダル科、国際ホテル科については関連業種への就業が93%となった。元々、高校生の潜在意識における業界への希望（憧れ）が減少したわけではないと考えられることから、父母等を含め、この業界へ希望・就業に二の足を踏む状況を打破するよう、高校訪問やオープンキャンパスで各科の内定状況を大きくPRしていく。

#### 《特記事項》

学生募集時の情報提供は正確かつ誠実であるべきと考えている。入学者の卒業後まで考えた真摯な学生募集でありたい。

令和3年度より継続的にPodcastsによる英語学習者向け英会話ラジオ配信している（昨年度は約30回配信）。直接、学生募集には繋がっていないかもしれないが、海外からのダウンロードもあり、本校のPRに貢献している。

#### （8）財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

#### 《現況》

- ・2年連続の学生減ではあるが、現状、まだ支出超過のような状況には至っていない。
- ・収入、支出を予算化することにより、収支バランスが把握できている。

#### 《課題と改善策》

- ・中長期的な財務基盤の安定について、今後の学内組織の変更、教職員の構成の見直し、経費節減等の施策を実施していく。
- ・収入、支出を目的ごとに予算化しているが、計画外の予算が一部あるため、教職員全体で予算化の必要性を理解し、共通認識として取り組んでいく。
- ・原資が減少（学生減）していることを、全教職員が認識し、普段の行動から意識し

ていく。

《特記事項》

- ・会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による監査（年3回）を行っており、適正に実施されている。

財務情報は、私立学校法に従い、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経たのち学園のWebサイトにて「事業報告・財務情報」を毎年更新公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

《現況》

- ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営を行っている。
- ・個人情報に関するセキュリティポリシーに従って個人情報の管理等を行っており、個人情報に関する内部監査を実施している。
- ・自己評価結果を公表している。

《課題と改善策》

毎年各部門と協力し、自己評価の実施に臨んでいる。内部からは見えにくい改善点については、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の意見を真摯に受け止めながらより良い教育環境づくりに努めたい。

《特記事項》

学園の教務委員会において、「学園教職員 SNS 使用時のガイドライン」、「学園各校の公式 SNS アカウント利用担当者に対するガイドライン」を設定し、そのガイドラインに沿って SNS 運用を実施している。また、委員会において「個人情報保護ガイドライン」を作成中。完成次第、ガイドラインに則った運営を行う。

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

### 《現況》

高校との連携によるキャリア教育・職業教育の一環として、複数の高校からの依頼で高校生向けに「マナー講座」、「就職面接対策講座」を実施。また、高校教員対象の「就職面接指導のポイント講座」も行っている。また、SDGsの一環としてフィリピンのNGOと提携しフェアトレードを行った。今後も授業内でディスカッションをしながら、SDGsプロジェクトとして社会貢献について考えていきたい。

### 《課題と改善策》

学生たちの日頃の学びが生きる社会貢献でありたい。市民対象のスクールウェディング、テーブルマナーセミナー、キッズイングリッシュなどの催事を検討したい。

### 《特記事項》

#### ボランティア活動

(1) コロナ禍による制限を大きく受けてしまったが、国際エアライン科の学生による歌と踊りのサークル「青春ガールズクワイア」が、地域振興策の一環として商業施設等の依頼を受けライブを行っている。

(2) 海外研修は2年連続で中止になってしまったものの、フィリピン・マニラに渡航した際には貧困地区トンドにおいて、幼稚園でのボランティアを行っている。

※「青春ガールズクワイア」のライブは令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染予防対策のためほとんどの実施を見送ったが、イオンモール熱田で開催された「みんなの防災習慣2021」、中部国際空港セントレアで開催された「スイーツフェスティバル」に出演した。

また、名古屋市に委託されたNPO団体が主催する「子どもライフキャリアサポート」の取り組みの一環で、名古屋市立矢田小学校で開催された「ミラとびランド2021」に参加。

## (11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
○学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

### 《現況》

留学生の受入れ、在籍管理を適切に行っている。国際交流については法人事務局国際交流室が主導で行い、依頼に応じて適宜対応している。

### 《課題と改善策》

本校の入学基準が日本語能力検定N2以上であるためなのか、希望があったとしても受け入れられないことも多い。結果、令和4年度の留学生は「0」となった。学生募集の観点からも留学生の増加を進めたいところだが、入学後の授業内容や学内・外活動の観点から、やはり最低限N2以上を取得の必要性があり、基準を下げることによる留学生受け入れは考えていない。

### 《特記事項》

国際ホテル科が電波学園提携校である鎮江高等職業技術学校とオンライン交流授業を実施。

## V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校はホスピタリティ教育を軸にグローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財の育成を目標としている。

卒業後に目指す分野が航空業界、ホテル業界、ブライダル業界が中心である本校は、令和 2 年度に引き続き、令和 3 年度もコロナ禍の影響を大きく受けた。特に大手航空会社の採用が中止となった国際エアライン科の教育現場は、最後まで夢に届かなかった学生たちへの様々な対応が求められた。卒業後の新たな進路を見つけ出すため、「何故働くのか。得意なこと、興味のある分野は何か。新しく見つけた企業のビジョンやミッションが自分の思い描く未来に繋がっているのか」などを授業内外で、また就職カウンセリングを繰り返す中で学生と共に模索した。学生の気持ちを尊重しながらも方向転換を指導していくことにより、英語力とコミュニケーション能力を武器として、児童英語インストラクター、国内外ホテル、輸入車ディーラー、新幹線パーサー、大学三年次編入などに進路変更していった。

数年前のように、航空業界には大量に卒業生を送り込むことはできなかったものの、一部ではあるが JAL カーゴサービス、旅行総研、CKTS のグランドスタッフに内定者を輩出することができたことは、日頃の指導の成果の賜物である。

また、ブライダル科と国際ホテル科は 93%の学生が専門分野に就職内定。国際ホテル科はホテルニューオータニ、パークハイアット東京、シェラトングランデトーキョーベイホテル、ハイアットリージェンシー東京、ウェスティン大阪、パークハイアット京都、ジェイアール東海ホテルズ、ヒルトン名古屋などの老舗ホテル、外資系ホテルに合格者を多数輩出。ブライダル科はアイ・ケイ・ケイ、スタイルズ、高見、ブライダルハウスチュチュ、ゼットンなど上場企業、人気企業に例年に続き合格実績を出した。これらは学科責任者、担任のきめ細やかなサポートと、長年にわたり培ってきた企業との強い信頼関係の構築が故である。

学習成果については、特に英語力の向上が挙げられる。英検準一級 8 名、TOEIC900 点台 6 名、800 点台 12 名、700 点台 20 名、600 点台 30 名の実績を上げることができた。児童英語指導者資格の取得も令和 2 年度の 9 名から令和 3 年度は 11 名に向上した。これは新型コロナウイルス感染の予防対策を行いながら、対面授業・対策講座を続けたことが大きく関係していると分析している。

一方、退学者率は 8.07%となり、目標の 5%以下を達成することができなかった。金銭的な理由、精神的なものによる退学者も何名かいたものの、前述したが、進級が決まってからの年度末退学も多く、1 年を通しての指導に、学生からの視点で「引き付ける」ものが足りなかったのではないかと自問自答しており、令和 4 年度への大きな反省材料となった。学生の質の変化に学校側が対応できているのかが問われているとも

言える。

新型コロナウイルスの影響が国内を侵食し始めてから 2 年以上が経過するが、未だ先行きは不透明で、学校としても対応に追われてるのが現状である。しかしながら、人類の英知はいずれこの状況も打破するものと信じている。実際、国際的にも行動制限は緩和されつつあり、マスク着用を必要としないことも議論されるようになった。ウィズコロナ、アフターコロナを考えた場合、全てが元の生活に戻ることはできないのかもしれないが、数年前のような業界の賑わいが再び訪れる時のために、常にアンテナを張りながら準備を怠らないようにしている。このような姿勢を学生への指導に結びつけ、能動的に活動できる人材の育成に努める。

総合評価結果として、令和 3 年度は学生募集、退学者減少という点については、芳しい成果を上げることはできなかった。また、同種他校間での募集活動も激化し、本校の立ち位置も決して盤石ではない。しかしながら、教育の原点としての人間教育には本校の方針にブレがあってはならず、世情に左右されないよう、学園の教育方針でもある「ありがとう、と言われること」を、最後まで貫かなければならないと考える。今後もコンプライアンスに沿った学校運営を進めていきたい。

以 上